



あま市 男女共同参画に関する 市民意識調査

報告書概要版



1 調査の目的

本市では、「第2次あま市男女共同参画プラン」に基づき、男女共同参画社会の実現やDV（ドメスティックバイオレンス）の防止、女性の活躍推進に向けて様々な施策に取り組んでいます。このたび、本計画が中間年を迎えるにあたり、これまでの施策の効果の検証を行うとともに、今後の取り組みをより一層充実させるための参考とすることを目的として、本調査を実施しました。

2 調査対象

あま市在住の18歳以上の3,000人を無作為抽出

3 調査期間

令和7年11月4日（火）から令和7年11月25日（火）

4 調査方法

郵送配布、郵送・WEB併用回収

5 有効回答数

1,116件（37.2%）

6 調査結果の表示方法

回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

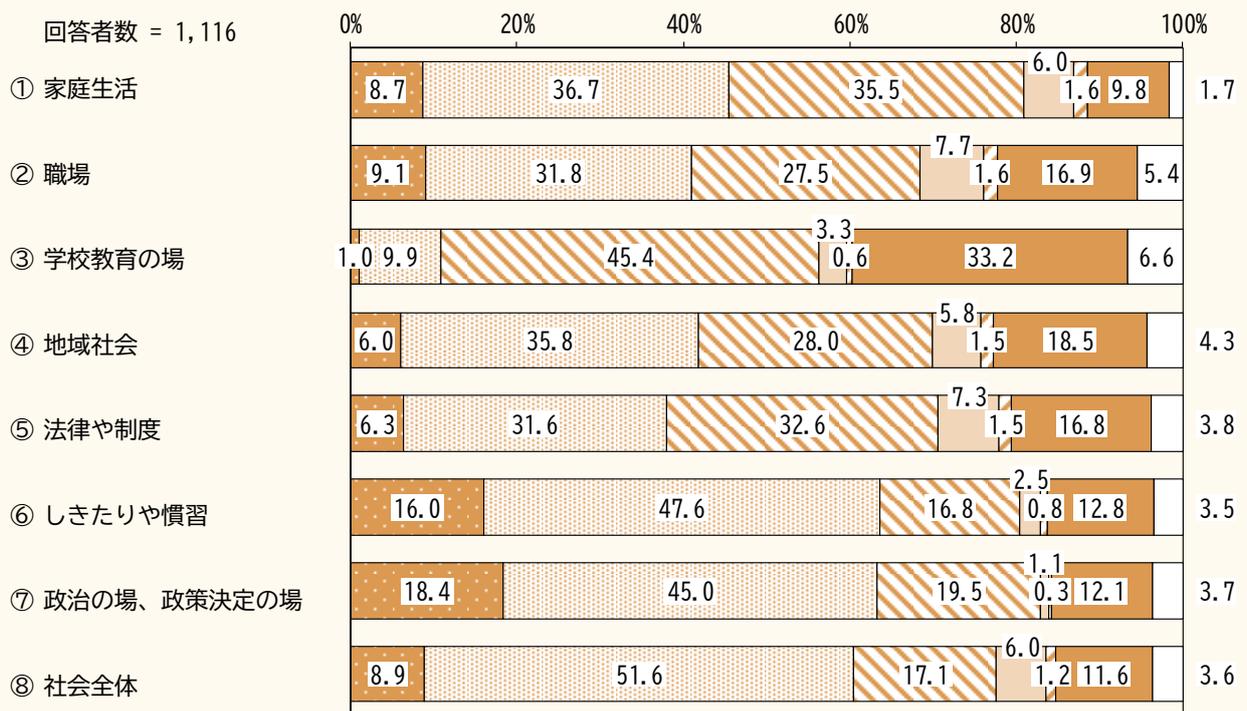
男女の人権尊重について

Q あなたは、次の①～⑧の項目について、男女の地位は平等になっていると思いますか。
(○印①～⑧の項目ごとに1つずつ)

「男性の方が非常に優遇されている」で『⑦ 政治の場、政策決定の場』が、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」で『⑧ 社会全体』が、「平等である」で『③ 学校教育の場』が、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」で『② 職場』が、「女性の方が非常に優遇されている」で『① 家庭生活』『② 職場』が高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- ▨ どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▨ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

回答者数 = 1,116

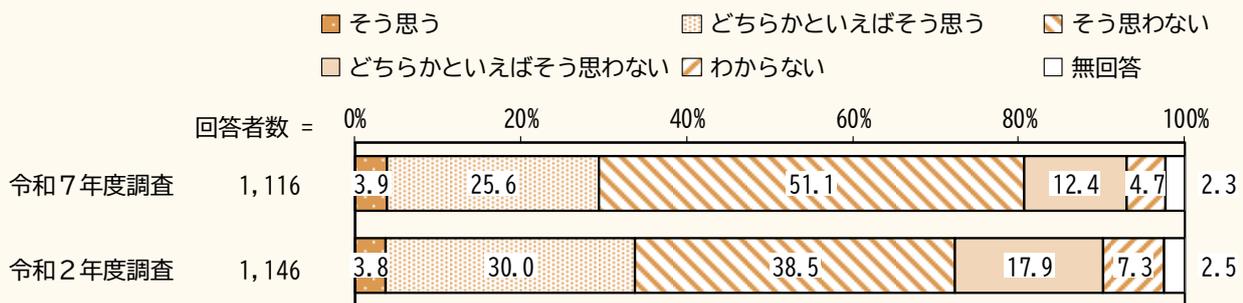


家庭生活について

Q あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどのように思いますか。(〇印1つ)

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が29.5%、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が63.5%となっています。

令和2年度調査と比較すると、“そう思わない”の割合が増加しています。

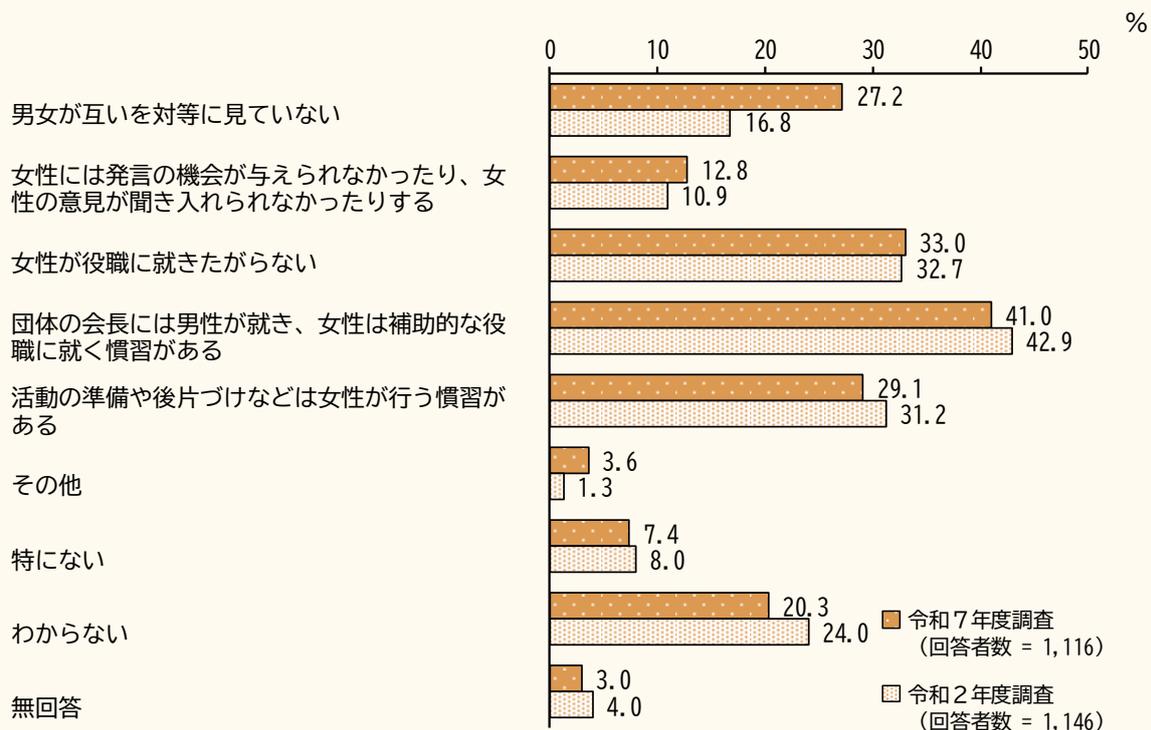


地域活動について

Q あなたが地域活動における男女の役割分担などに差があると考えられることは何ですか。(〇印いくつでも)

「団体の会長には男性が就き、女性は補助的な役職に就く慣習がある」の割合が41.0%と最も高く、次いで「女性が役職に就きたがらない」の割合が33.0%、「活動の準備や後片づけなどは女性が行う慣習がある」の割合が29.1%となっています。

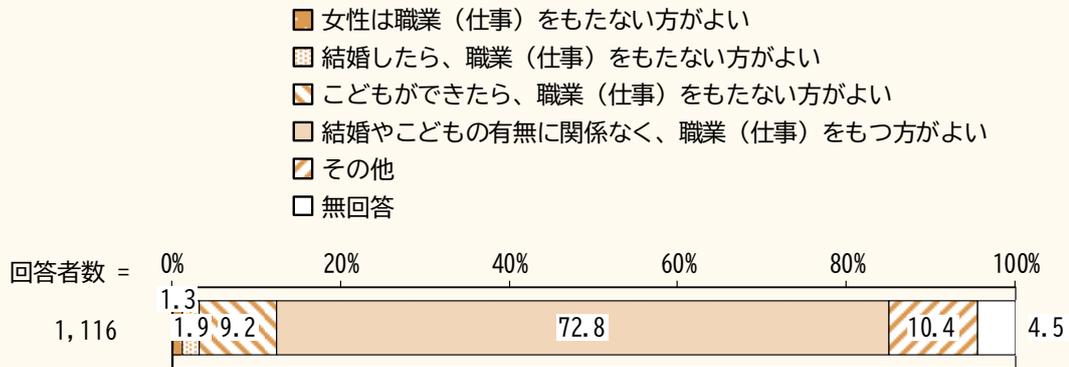
令和2年度調査と比較すると、「男女が互いを対等に見ていない」の割合が増加しています。



女性活躍推進について

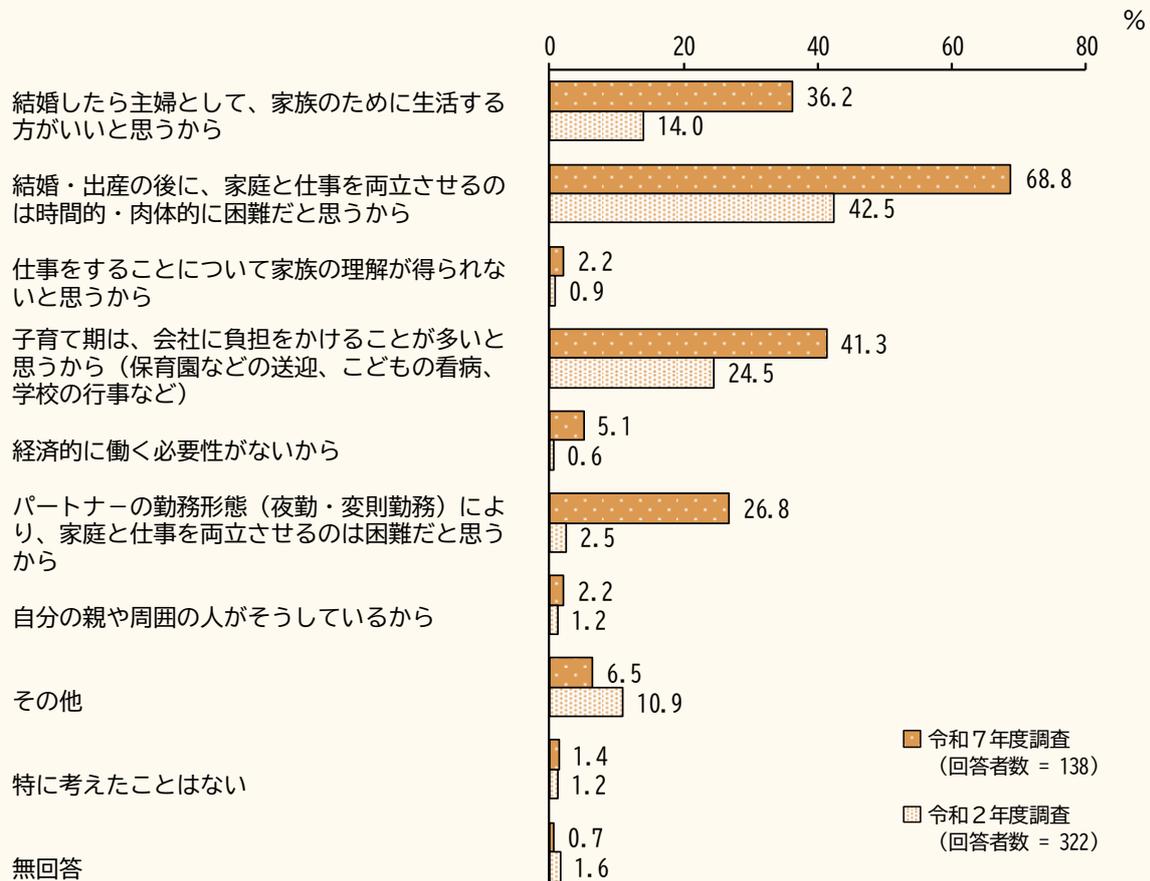
Q 女性が職業（仕事）をもつことについて、どう思いますか。（○印1つ）

「結婚やこどもの有無に関係なく、職業（仕事）をもつ方がよい」の割合が72.8%と最も高くなっています。



Q 職業（仕事）をもたない方がよいと考える理由は何ですか。（○印いくつでも）

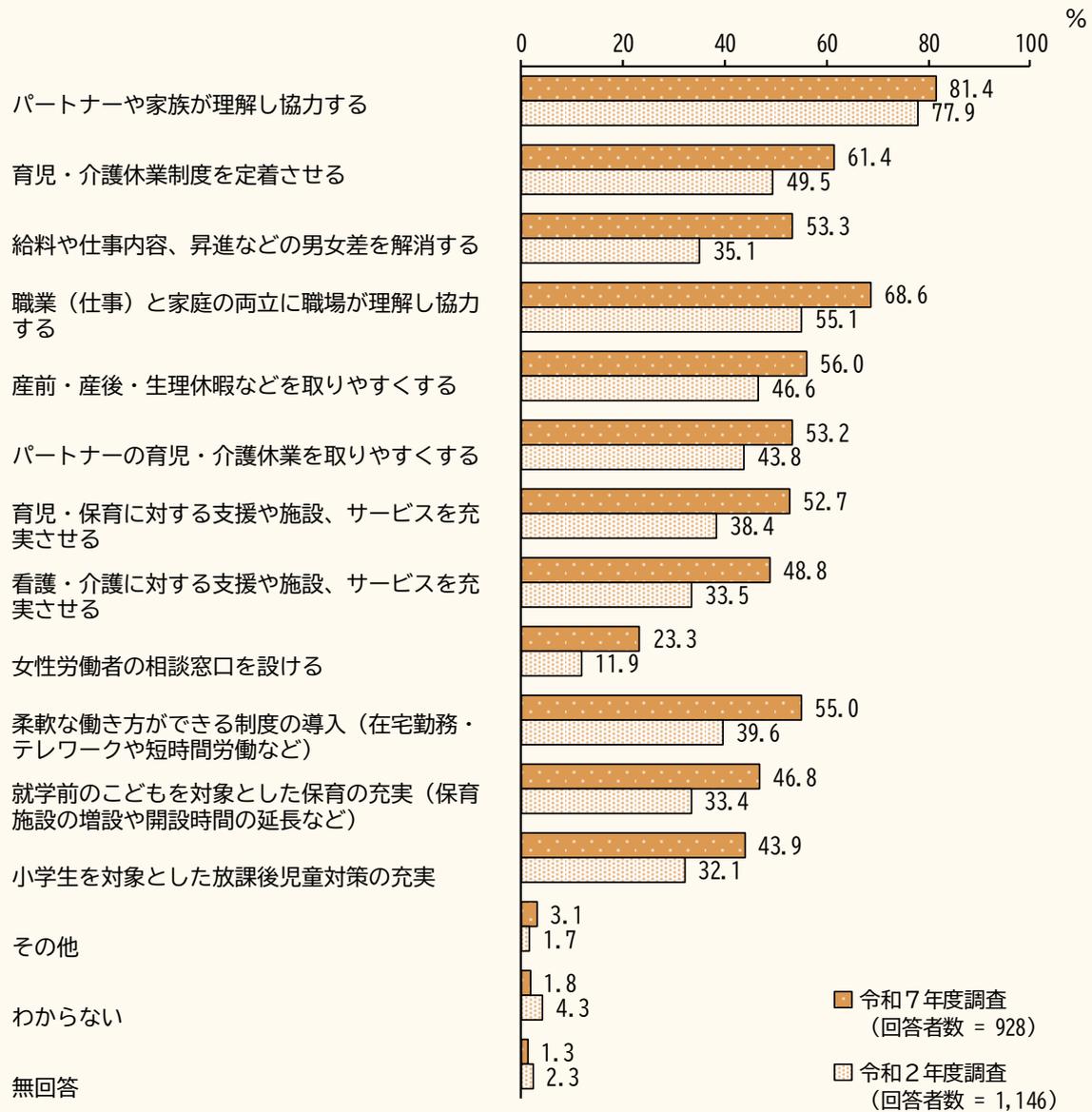
「結婚・出産の後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が68.8%と最も高く、次いで「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから（保育園などの送迎、こどもの看病、学校の行事など）」の割合が41.3%、「結婚したら主婦として、家族のために生活する方がよいと思うから」の割合が36.2%となっています。





女性が安心して働き続ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印いくつでも)

「パートナーや家族が理解し協力する」の割合が81.4%と最も高く、次いで「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が68.6%、「育児・介護休業制度を定着させる」の割合が61.4%となっています。



ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

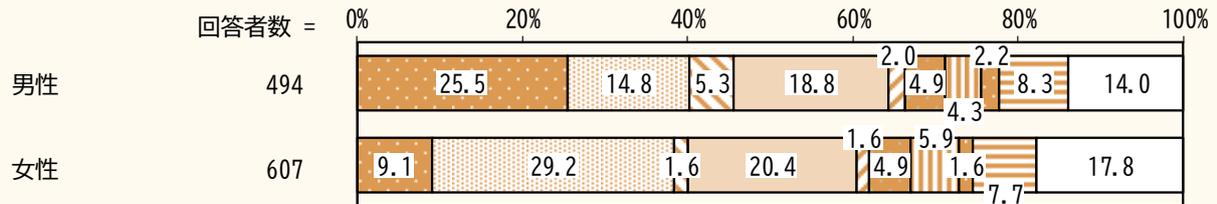
Q 現在、ワーク・ライフ・バランスが重要視されていますが、あなたは生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」で何を優先しますか。

（○印①～②の項目ごとに1つずつ）

① 現実

性別にみると、女性と比較して男性で「仕事」を優先しているの割合が高く、男性と比較して女性で「家庭生活」を優先しているの割合が高くなっています。

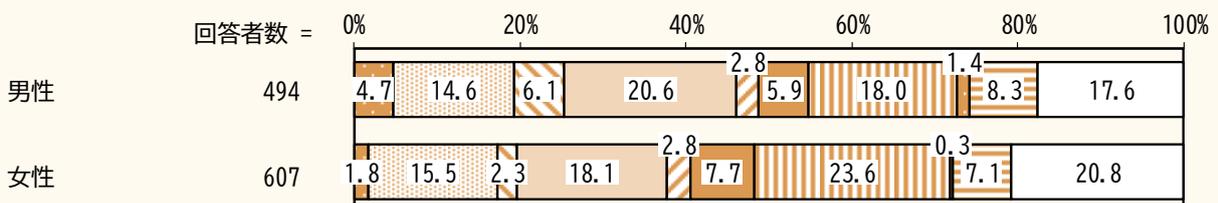
- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている
- その他
- わからない
- 無回答



② 理想

性別にみると、男性と比較して女性で「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしたいの割合が高くなっています。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をすべて大切にしている
- その他
- わからない
- 無回答

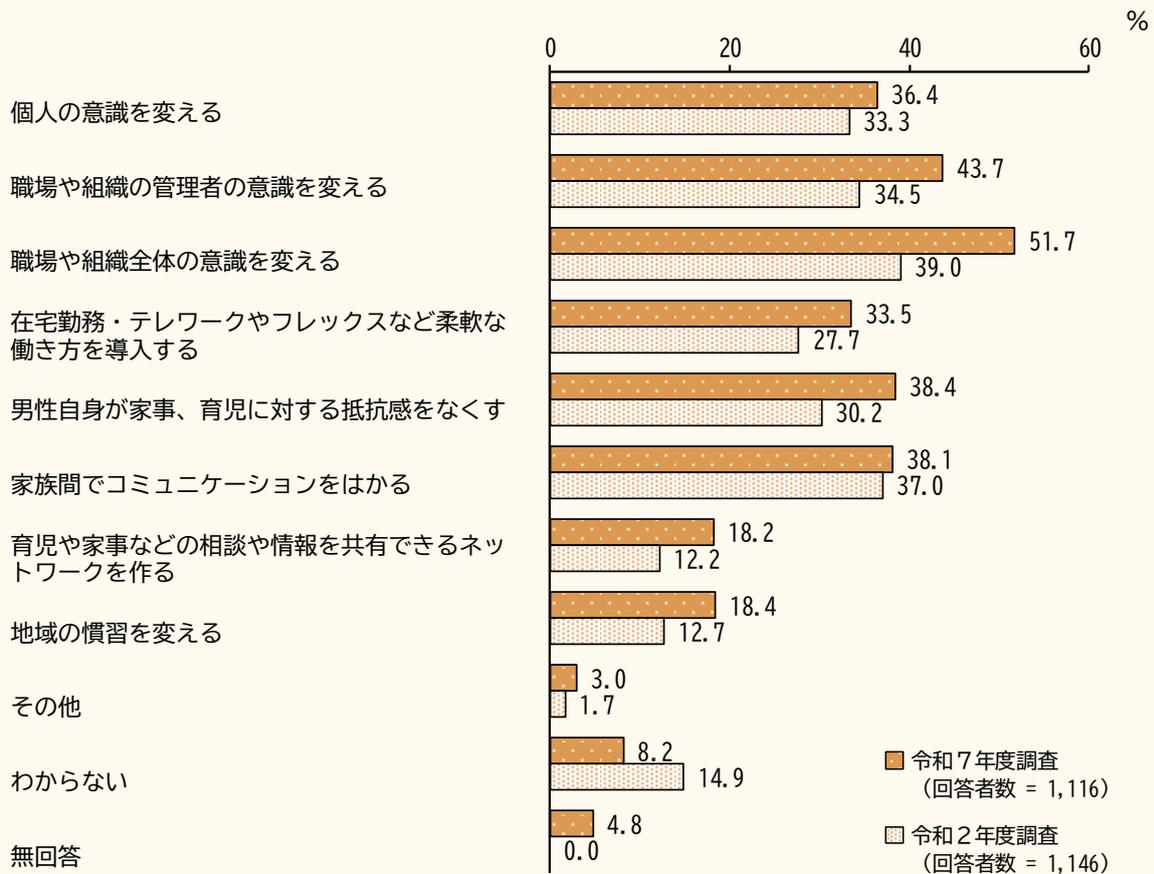




ワーク・ライフ・バランスを実現するために、どのようなことが必要だと思いますか。
(〇印いくつでも)

「職場や組織全体の意識を変える」の割合が 51.7%と最も高く、次いで「職場や組織の管理者の意識を変える」の割合が 43.7%、「男性自身が家事、育児に対する抵抗感をなくす」の割合が 38.4%となっています。

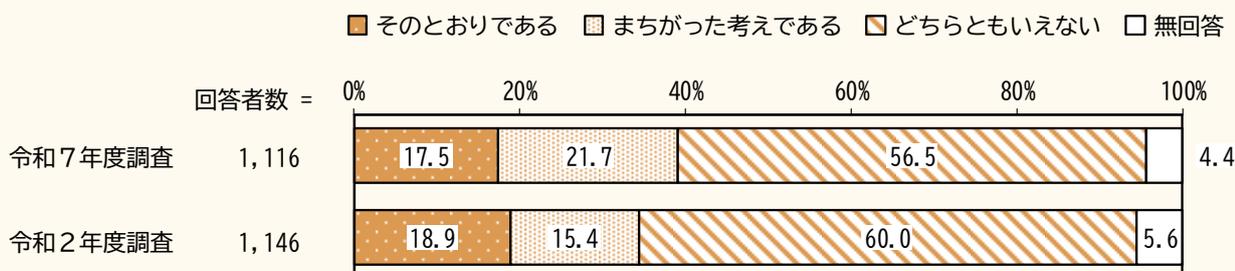
令和2年度調査と比較すると、「職場や組織の管理者の意識を変える」「職場や組織全体の意識を変える」「在宅勤務・テレワークやフレックスなど柔軟な働き方を導入する」「男性自身が家事、育児に対する抵抗感をなくす」「育児や家事などの相談や情報を共有できるネットワークを作る」「地域の慣習を変える」の割合が増加しています。



子育て・こどもの教育について

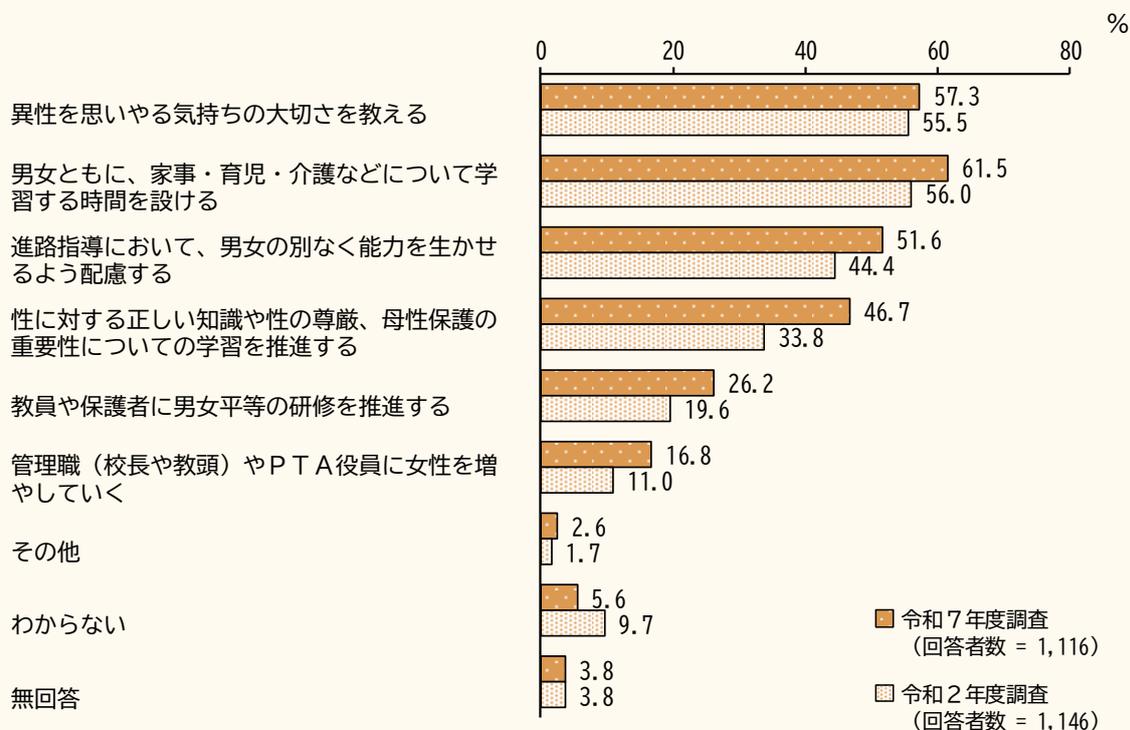
Q こどもの育て方については「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」とお考えですか。(〇印1つ)

「そのとおりである」の割合が17.5%、「まちがった考えである」の割合が21.7%、「どちらともいえない」の割合が56.5%となっています。



Q 男女平等の意識を育てるために、学校教育ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇印いくつでも)

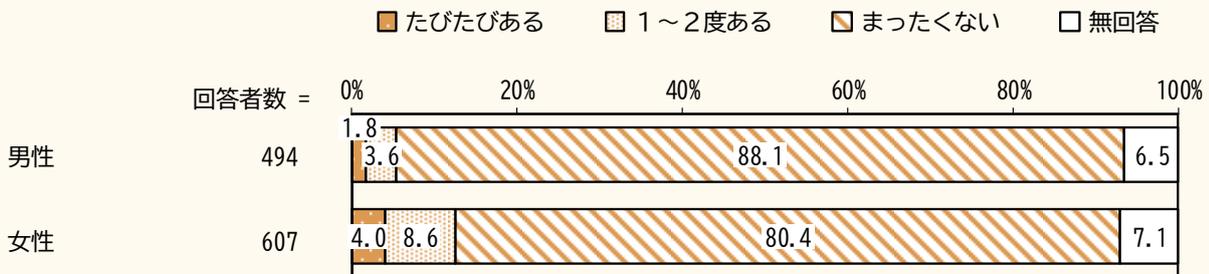
「男女ともに、家事・育児・介護などについて学習する時間を設ける」の割合が61.5%と最も高く、次いで「異性を思いやる気持ちの大切さを教える」の割合が57.3%、「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が51.6%となっています。



パートナー等からの暴力について

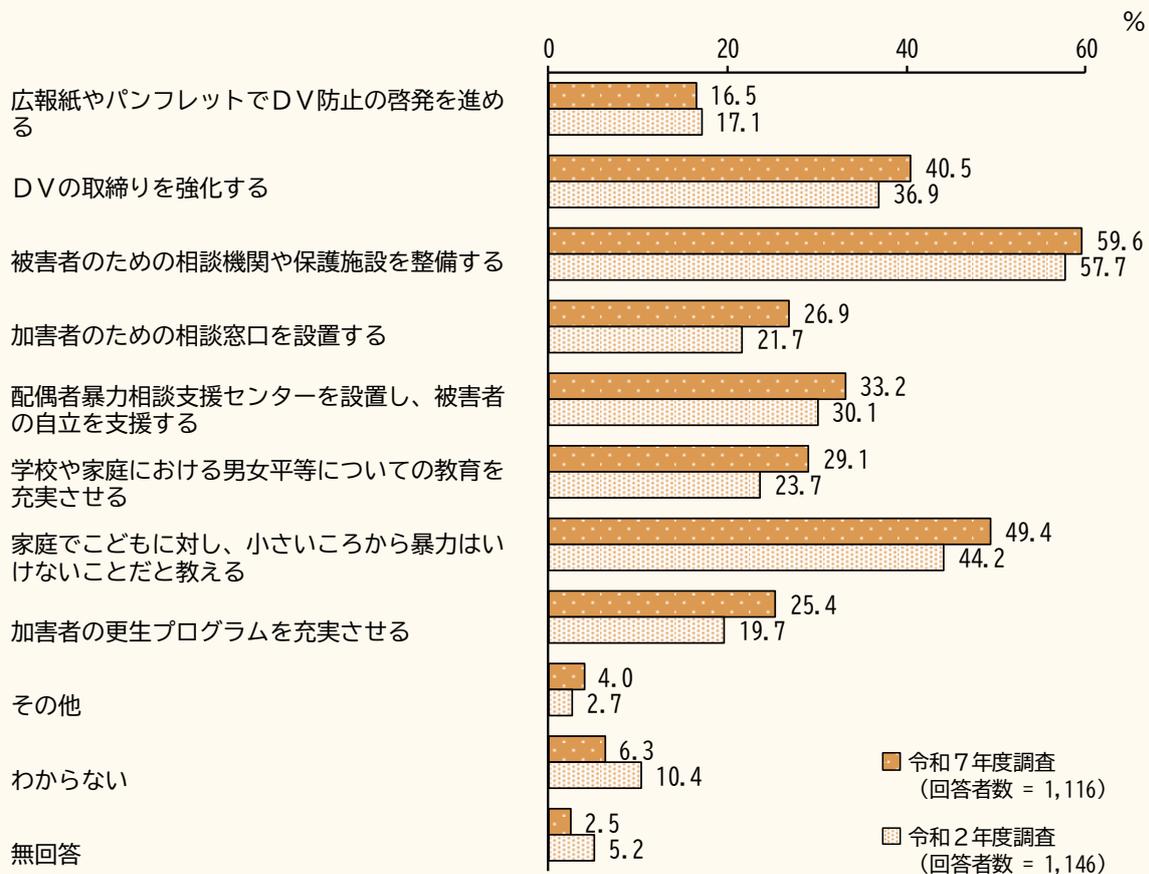
Q あなたはこれまでに、DVを受けたことがありますか。(○印1つ)

性別にみると、女性と比較して男性で「まったくない」の割合が高く、男性と比較して女性で「1～2度ある」の割合が高くなっています。



Q すべての方におたずねします。DVを防止するために、どのようなことが必要だと思いますか。(○印いくつでも)

「被害者のための相談機関や保護施設を整備する」の割合が59.6%と最も高く、次いで「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が49.4%、「DVの取締りを強化する」の割合が40.5%となっています。



ハラスメントについて

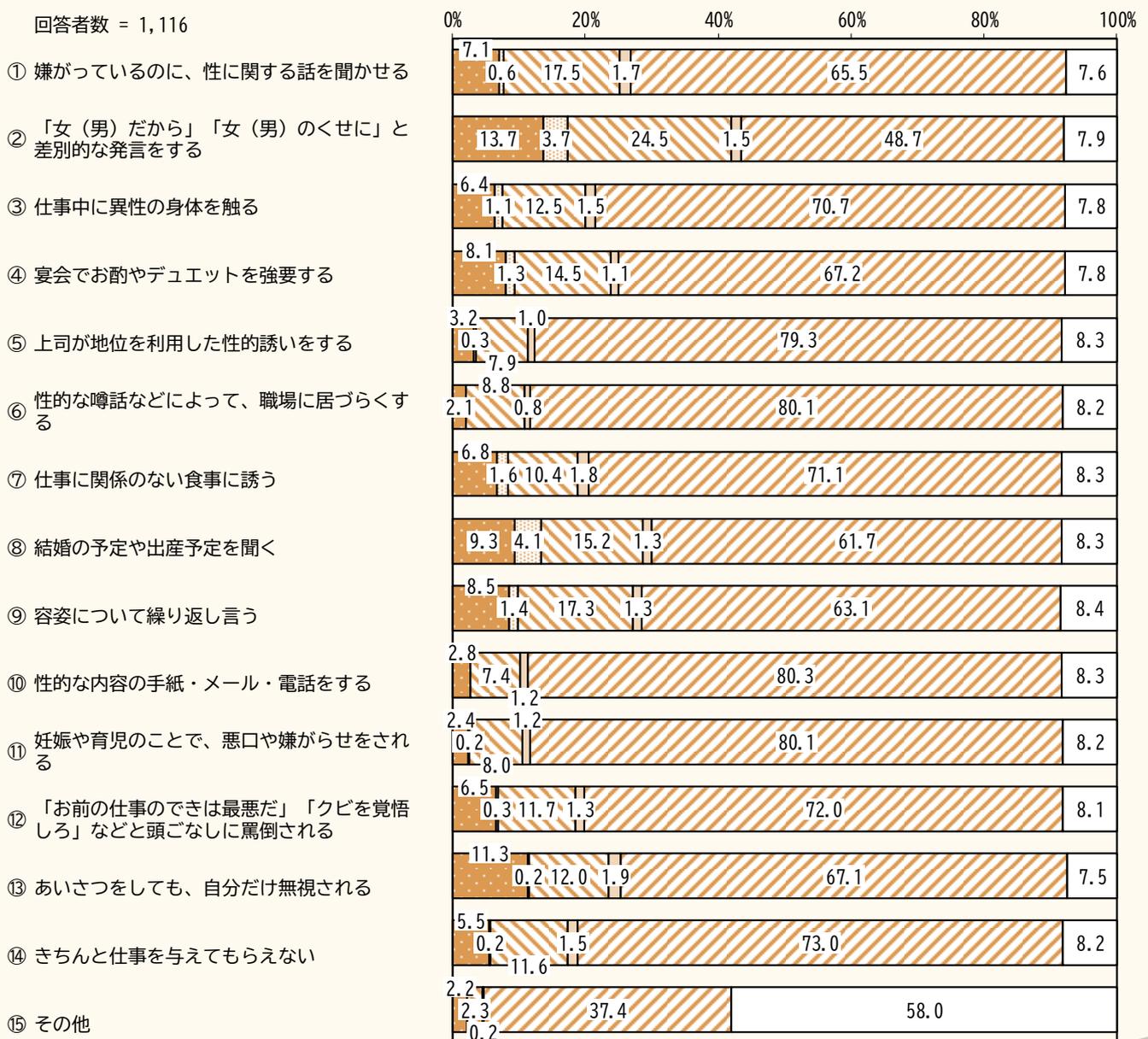
Q

あなたは職場・地域・学校などで、セクシュアル・ハラスメントやパワーハラスメントを受けたり、あるいはしたり、身近で見聞きしたことがありますか。(○印①～⑮の項目ごとに1つずつ)

「受けたことがある」「見聞きしたことがある」で『② 「女(男)だから」「女(男)のくせに」と差別的な発言をする』が、「したことがある」で『⑧ 結婚の予定や出産予定を聞く』が、「相談を受けたことがある」で『⑬ あいさつをしても、自分だけ無視される』が、「周りにはないと思う」で『⑩ 性的な内容の手紙・メール・電話をする』が高くなっています。

受けたことがある したことがある 見聞きしたことがある
 相談を受けたことがある 周りにはないと思う 無回答

回答者数 = 1,116

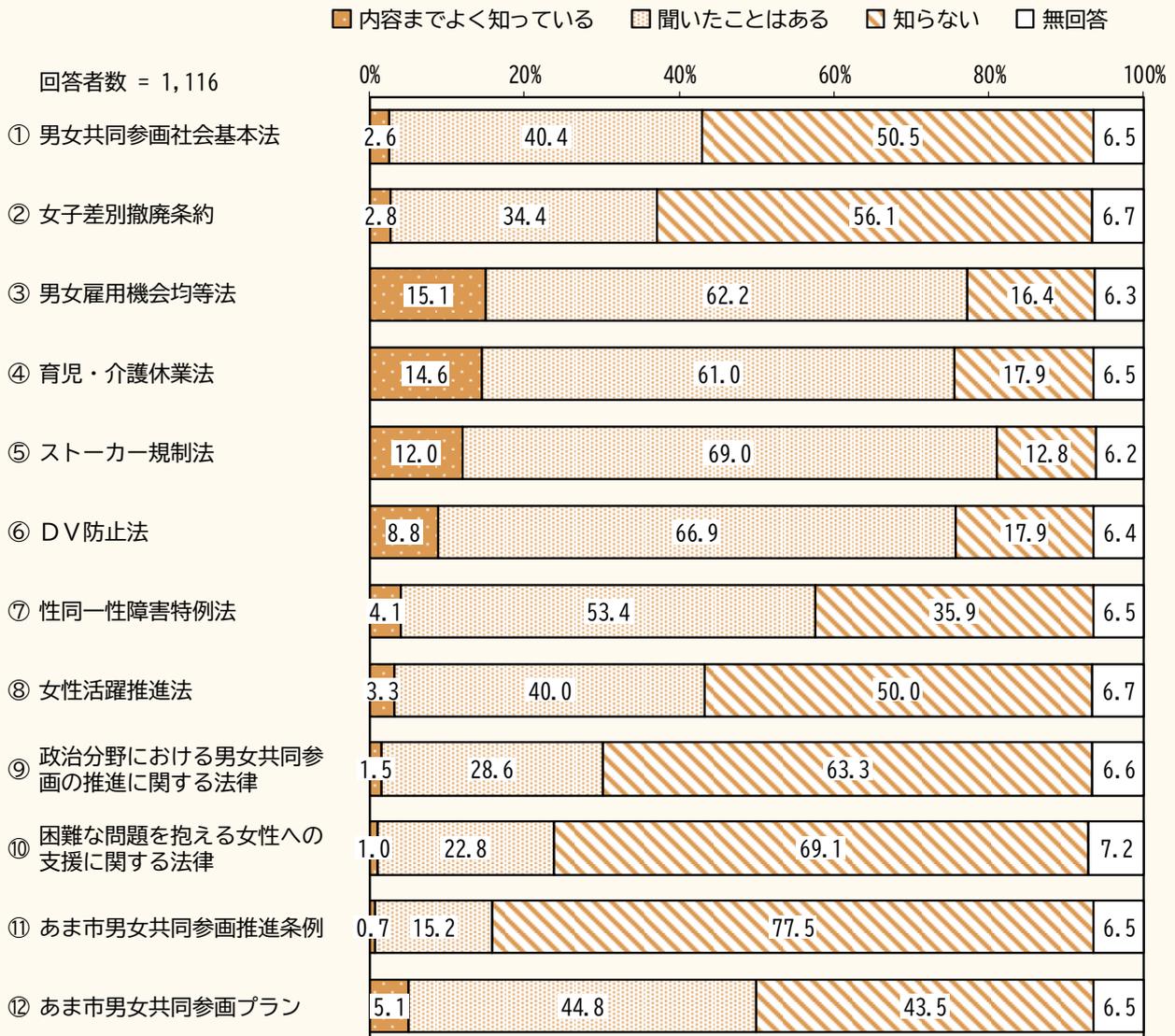


男女共同参画について

Q

現在、男女共同参画社会の実現に向けて、法律や制度等の整備が進んでいます。あなたは、次のような法律等についてご存じですか。(○印①～⑫の項目ごとに1つずつ)

「内容までよく知っている」で『③ 男女雇用機会均等法』が、「聞いたことはある」で『⑤ ストーカー規制法』が、「知らない」で『⑪ あま市男女共同参画推進条例』が高くなっています。

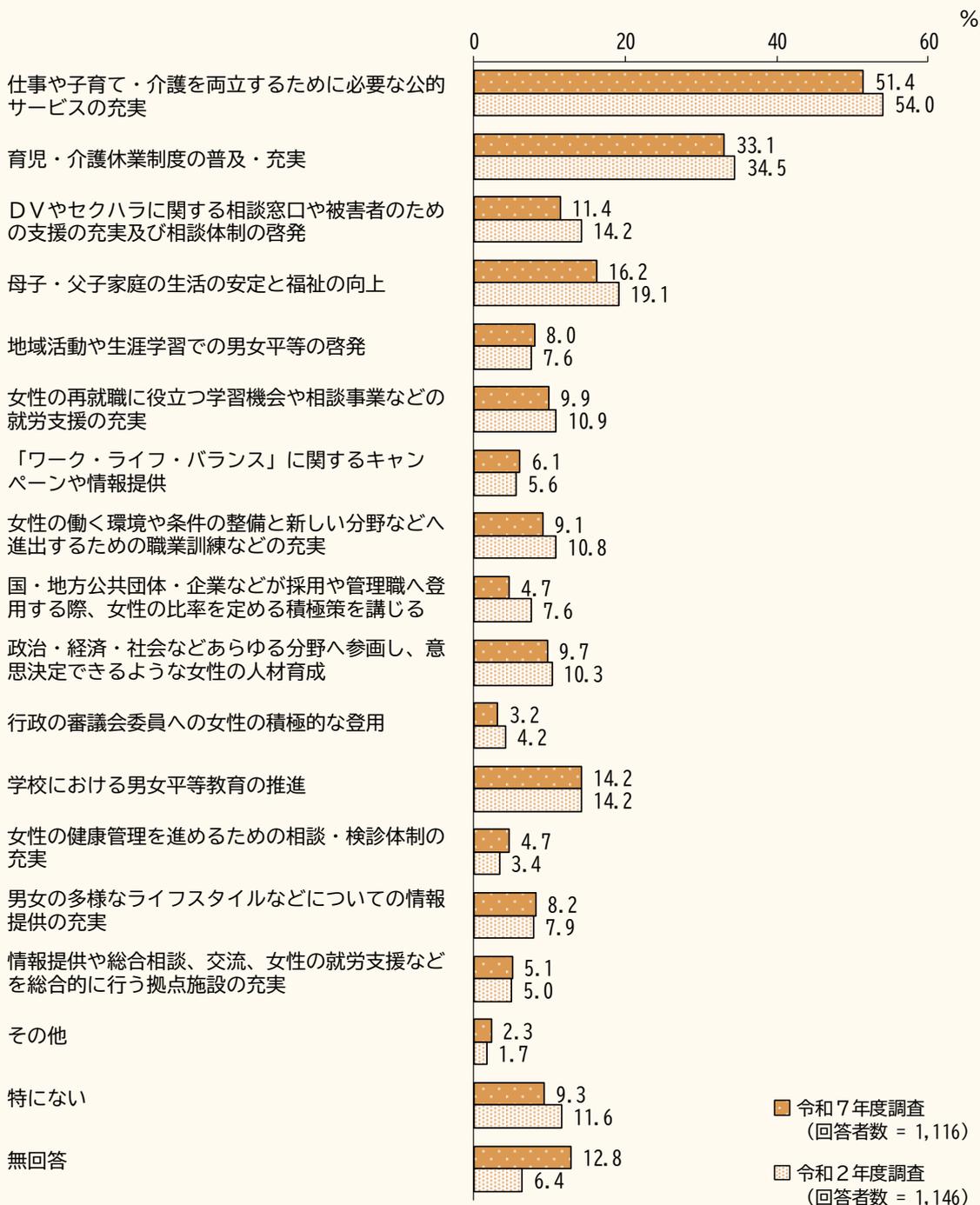




「男女共同参画社会」を実現するために、今後行政ではどのような取組みが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

「仕事や子育て・介護を両立するために必要な公的サービスの充実」の割合が 51.4%と最も高く、次いで「育児・介護休業制度の普及・充実」の割合が 33.1%、「母子・父子家庭の生活の安定と福祉の向上」の割合が 16.2%となっています。

令和2年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



調査報告書の閲覧について

概要版よりも詳しい「報告書」は、あま市公式ウェブサイトでご覧いただけます。



あま市 市民生活部 人権推進課 令和8年2月

〒497-8602 愛知県あま市七宝町沖之島深坪1番地
TEL 052-444-0398 FAX 052-444-1074

あま市公式ウェブサイト <https://www.city.ama.aichi.jp/>